

桜竹梅

平成 17 年 秋号



理事長挨拶

～能力主義的な人事制度と人事考課～

年功型人事制度は、わが国において昭和 30 年代以降高度経済成長期に広く普及し、終身雇用制とともに日本型雇用システムの代表として経済発展に大きく寄与してきました。年功制や終身雇用制は、右肩上がりの経済成長期において、労働者にとっては生活の安定をもたらし、企業にとっては若年層を安価な労働力として安定的に使用できるというメリットがありました。

市場ニーズの高度化や多様化、企業間競争の激化など、企業を取り巻く経営環境が非常に厳しくなると、企業で求められる人材像も変わることから、人材活用の方法も改革が必要です。成熟化した市場において高度化・多様化する顧客ニーズに応えるためには、商品やサービスの「新規性」「独創性」が優先され、「創造性のある個性豊かな人材」が求められてきます。

そして、人事管理が経営資源である「ヒト」の有効活用を目的とすることを考えると、経営環境の変化にともない、年功制に変わる新たな人事制度の導入が必要となります。この新たな人事制度は、「人材活用」の視点から、人材の開発や活性化・戦力化、従業員の仕事への動機づけ、能力の有効活用などを実現し、人材の「質」の面から経営基盤を再構築するものである必要がありますが、これを実現するもののひとつとして、能力主義による人事制度があげられます。

能力主義による人事制度とは、集団的一括管理による年功型人事管理から決別し、能力の公正な評価と処遇の管理・従業員一人ひとりの個別能力管理・人材育成と能力開発・適正配置(人材活用)管理の 4 つの柱に基づく人事制度です。

能力の公正な評価にきちんとしたものさしが無ければ、公平な評価を行うことができないし、なぜそのような結果になったのかを論理的に説明することもできません。また、どのようにしたら評価が上がるのかを明確にし、能力開発の方向性を示す事も出来ません。このような、**評価のものさしの役割を果たすのが人事考課基準で、人事考課基準を含め正当な評価を行うためのしくみが人事考課制度なのです。**

当院でも、以前より賞与には能力により支給額に差を付けていますし、また今年 3 月に人事考課の自己評価を取り入れました。

現在、能力主義的人事制度を積極的に取り入れる職場は多くなってきています。皆さんも専門的な知識を蓄積し、「創造性のある個性豊かな人材」となるにはどうすればよいのか考えていきましょう。

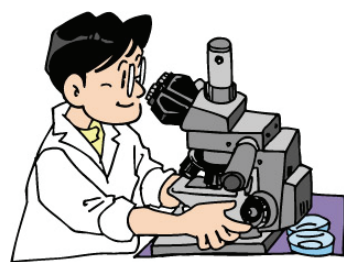


理事長 島津 栄一

健康だより③ ～大腸癌と検診～

日本では大腸癌は増加傾向にあると言われており、早期発見・早期治療のため大腸検査の重要性は高まっています。

大腸癌検診の方法としては、免疫学的便潜血検査 2 日法による逐年検診が広く施行されています。この方法の感度は 86～88%と推定されており、もちろん完璧ではありませんが、スクリーニング検査としては有用なものと思われます。この便潜血検査が 1 回でも陽性に出れば、精密検査を受ける必要があります。



当初、精密検査の標準法としては S 状結腸内視鏡＋注腸 X 線検査が推奨されていましたが、注腸 X 線検査では深部大腸の病変の感度が低いことが明らかになり、全大腸内視鏡検査に切り替えることが推奨されています。当院でも、大腸検査として積極的に全大腸内視鏡検査を行っています。

大腸内視鏡検査のためにはゴライテリー法といって、ポリエチレングリコール（ニフレック）という下剤を 2 リットル以上飲んで頂き、大腸の内腔をきれいにする必要があります。少し飲みづらい薬ですが、その代わり前日の食事制限は基本的には不要となります。

検査自体は、それぞれの腸の状態（長さや走行、前処置の良悪）にもよりますが、数分～数十分で終了します。曲がりくねった腸管の中を内視鏡が進んで行きますので、時に痛みを感じることもありますが、長く続くことはなく、鎮痛剤や鎮静剤はまず必要としません。

検査で大腸癌が発見されたとしても、あわてる必要はありません。つい最近（2005 年 7 月）、「大腸癌治療ガイドライン」が作成されましたが、早期のもの（粘膜癌や、一部の粘膜下層癌）であれば、内視鏡で切除（ポリペクトミーや内視鏡的粘膜切除術）することで治療が終了する場合があります。その他の病変で手術が必要であっても、最近では腹腔鏡下手術が普及していますので、比較的低侵襲（身体の負担の少ない）な治療を受けることが可能となっています。



医師 公家 健志



医療理念

「病病・病診連携の基盤に立ち、常に信頼される医療を実践し、地域住民の健康に貢献する。」

医療方針

一、「生きることへの共感」、「病む人への思いやり」をもって医療に従事する。

二、地域住民の立場に立った医療に貢献する。

三、病病、病診連携を大切にし、医療ネットワークの中から最適な医療を、倫理性に基き実践する。

四、消化器病治療、透析医療、老人介護医療、リウマチ膠原病治療等、当病院の専門としている医療部門においては、医療レベルの向上に努力し、先進的医療を提供する。

●第二の人生をどう生きるか

●セカンドライフ支援講座●

人生は70歳から

～我が国は高齢社会に突入～

第二次大戦が終わった昭和20年頃の日本人の平均寿命は50歳位でした。この頃は生活環境も悪く、衛生活動も殆ど行われておらず、医療も行き届いていなかったことから、結核等の感染症で死亡する人が多く、生まれてきた子供の死亡率も高かったため平均寿命が短かったのです。その後、生活環境の改善、医学・医療の進歩、医療制度の充実、公衆衛生の普及などに伴い、最近では欧米先進国を抜き、平均寿命が世界一となりました。寿命が延びるに連れ老人人口が増えるのは当然の結果で、我が国はすでに老人人口7%以上の高齢化社会から14%を越える高齢社会に突入しました。



100歳老人となるまで生きるのも夢ではなくなった現在、70歳から第二の人生をスタートさせ、お迎えのあった時にはユーモラスに次のように言いたいものです。

70歳にてお迎えがある時は、“今留守だ”

80歳にてお迎えがある時は、“まだまだ早い”

90歳にてお迎えがある時は、“そう急がずともよい”

100歳にてお迎えがある時は、“時期を見てこちらからボツボツ行く”

「健やかな老後」は誰しも願うところですが、そのためには少なくとも次の2つの基本的事項が大切です。

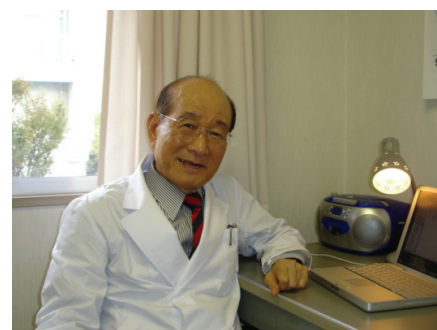
1. 日々の生活を楽しもうとする前向きな姿勢
2. 快適に過ごすための健康な体

これからのお話を通じて、「健やかな老後」を送るために色んな角度から、具体的な処方箋を示して行きたいと思います。



森 惟明先生の“セカンドライフ”はホームページでもご覧になれます。

<http://www.i-kochi.or.jp/prv/morik/secondlife/>



副院長 森 惟明

透析だより



前回、腎不全についてお話しましたが、腎機能が低下すると様々な症状がでできます。

腎機能が低下しますと…

症状１：むくみ、息苦しい、胸が重苦しい、血圧が高い等

尿が出なくなり、体の水分が溜まってくるとこのような症状が現れます。

症状２：食欲低下、不眠、のどが渇く、血圧が高い等

血液中の老廃物が排泄されないとこのような症状が現れます。

症状３：立ちくらみ、息切れ、胸がドキドキする等

造血機能が低下し、貧血になりこのような症状が現れます。

症状４：骨が弱くなる（骨折しやすくなる）

カルシウム不足になりこのような症状が現れます。

腎臓が悪くなるといっても、原因疾患によっても異なりますし、個々の生活習慣の違い、色々な条件によって現れる症状は変わります。

腎不全について理解を深める事によって不安も軽減すると思います。悩みがあれば一人で考え込まず、ご近所の病院、かかりつけの病院に相談してみてください。

●ストレスについて●

今回、広報委員会では職員を対象としてストレスに関するアンケートを実施しました。

回答は８７名、年齢構成は２０代 ４１％、３０代 １７％、４０代 ２４％、５０代 １７％、６０代 １％となっています。

ストレスが溜まっていると答えた方は８２名（９４％）で、当院職員も職場や家庭で大なり小なりストレスを抱えて生活をしています。その内ストレス解消法を持っていると答えた方は実に８１名（９９％）であり、解消法（複数回答）として多いものは買い物３４名、お酒３３名、食事２９名、スポーツ１６名、ドライブ１４名、旅行１２名、カラオケ１１名でした。少数意見として寝る、愚痴を聞いてもらう、映画を観る、マッサージ等もありました。



また、ストレス解消法を一人で行う方は２９人、友人、恋人、家族と一緒にいる方は８７名（複数回答）と、身近な人と過ごすという回答が多く見られました。行う回数は月に１～４回という回答が多く、時間的な余裕が無かったり、友人や恋人と時間が合わなかったりでこの程度の回数になると考えられます。

おすすめのストレス解消法として、汗をかく、お風呂にゆっくりつかる、バッチョングセンター、プールで泳ぐ、プラス思考で物事を考える、友人とおしゃべり、料理を作ってパーティーをする、美味しいものを食べたり飲んだりする等々、日常生活で行っていることや、ちょっとした時間をつくってストレスの発散をしている方が多いようです。

ストレスを発散できずに溜めてしまうと、大病の原因にもなります。自分に合ったストレス解消法で、日々すこやかに過ごせるよう気を付けていきましょう。



職員の皆様、ご協力ありがとうございました。

栄養だより

すっかり秋めいてきた今日この頃、みなさん店頭に並ぶ秋の味覚に食欲をそそられているのではないのでしょうか。今回は秋の味覚の代表、さつまいも、サンマを使用した献立を紹介します。

今回注目したいのは、サンマの栄養価の高さです。たんぱく質はもちろんのこと、脂にもとても魅力のある魚です。サンマの脂には IPM（イコサペンタンエン酸）と DHA（ドコサヘキサエン酸）が多く含まれています。

IPA は体内では作られない脂肪酸なので、食材から取らなくてはなりません。IPA には血しょう板の凝集を抑制し、血栓を溶解させる作用があります。また血管を拡張し、悪玉コレステロールと血液中の中性脂肪を減少させ、善玉コレステロールを増加させます。そのため、脳卒中や高血圧、動脈硬化、心筋梗塞の予防や、高脂血症を改善したりします。

DHA も同様の働きをするので、生活習慣病を予防します。さらに DHA は脳細胞を活発化させるので、高齢者なら痴呆防止に、子供には学習能力や記憶能力の向上に役立つのではないかとわれています。その上 IPM や DHA には、がんの発生を減少させ、がん細胞の転移を抑制し、抗がん剤の副作用を軽くする働きがあることも最近わかってきました。



いもご飯	エネルギー : 619kcal
さんまの塩焼き	蛋白質 : 20.7g
とうがんのくず煮	脂質 : 16.9g
フルーツ (オレンジ)	炭水化物 : 90.5g
	塩分 : 2.4g

サンマの脂は時間の経過とともにどんどん酸化され、過酸化脂質に変わっていきます。鮮度が落ちたものを食べるとじんま疹がでたり、下痢になったりします。また、アレルギー体質の人でも多食すると、じんま疹がでることがあります。以上のことに注意してみなさんも旬のサンマを是非、楽しんでください。

花だより

コスモス

花の形がサクラに似ているので、日本では秋桜ともいわれています。

花言葉

乙女の真心、調和、野性美、少女の純潔、「赤いコスモス」乙女の愛情、「白いコスモス」乙女の純潔。「野生美」はどんな雨や風でも、必ず立ち直ってまたすぐに花をつけるところからつけられた花言葉です。

日本には明治時代に入ってきました。日本で多く見られるのは信州、軽井沢で、高知県では越知のコスモス街道が有名です。もうすぐ満開の時期を迎えます。秋らしさを感じられる風景が、あちらこちらで見られるでしょう。

